

講義コード	11C0282900	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	アメリカ経済史					水野 里香		通年	
履修前提条件				備考					
授業の目的	<p>この講義は、前半では、アメリカが国内市場を成立させ、世界経済のなかで確固たる地位を占めるようになる19世紀末までを取り上げ、後半では、アメリカが経済的にも政治的にも国外への関わりを深めてゆくことになる現代までを取り上げ、世界経済の中心に位置を占めるようになった歴史的経緯を明らかにする。</p> <p>そして、いかにして経済大国と成り得たのかを解説するとともに、果たしてそれは現在でも当てはまるのかという疑問や、同国が抱えるさまざまな矛盾や問題点についても解説する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で取り上げた個別の事項について説明できるようになることに加え、その発生要因と結果および影響について理解することを通じて、現代の経済社会にたいする考察を深めることができる。 ・ アメリカ経済社会の発展過程について理解を深めるとともに、アメリカにおいて生じた経済的な諸事象が持つ意味を、現在との対比から学び、理解する。 								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノートを振り返り、授業内で学んだ事柄を、自身の言葉で説明できるようにする。 ・ 理解が不十分な箇所については、下記に掲げた参考図書等を用いて学習する。 ・ これらを合わせ、授業外に計120時間以上の学修を行うこと。 								
授業計画	<p>【第1回】 前期イントロダクション：講義内容、講義の進め方などの説明</p> <p>【第2回】 アメリカ発見と植民地時代</p> <p>【第3回】 独立革命</p> <p>【第4回】 新国家の成立</p> <p>【第5回】 産業革命期の経済（1）</p> <p>【第6回】 産業革命期の経済（2）</p> <p>【第7回】 南北戦争</p> <p>【第8回】 巨大企業体制の成立</p> <p>【第9回】 独占の登場</p> <p>【第10回】 トラストの誕生</p> <p>【第11回】 トラストの諸問題（1）</p> <p>【第12回】 トラストの諸問題（2）</p> <p>【第13回】 革新主義運動の国内展開</p> <p>【第14回】 革新主義期の対外政策</p> <p>【第15回】 前期のまとめ</p> <p>【第16回】 後期イントロダクション：前期の復習、後期の内容説明</p> <p>【第17回】 第一次世界大戦とアメリカ</p> <p>【第18回】 世界大恐慌の発生</p> <p>【第19回】 世界大恐慌への対応</p> <p>【第20回】 ニューディール政策</p> <p>【第21回】 第二次世界大戦とアメリカ（1）</p> <p>【第22回】 第二次世界大戦とアメリカ（2）</p> <p>【第23回】 戦後の国際秩序の形成</p> <p>【第24回】 IMF・GATT体制</p> <p>【第25回】 ニューフロンティア</p> <p>【第26回】 国内産業の衰退と新自由主義の到来</p> <p>【第27回】 ニューエコノミー</p> <p>【第28回】 グローバリゼーションとアメリカ（1）</p> <p>【第29回】 グローバリゼーションとアメリカ（2）</p> <p>【第30回】 後期のまとめ</p>								
成績評価の方法	第1期・学期末試験（30%）、第2期・学期末試験（30%）リアクションペーパー（30%）、授業への取り組み姿勢（10%）により評価する。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『アメリカ経済史』岡田泰男（慶應義塾大学出版会）2000、『新訂欧米経済史』藤瀬浩司（放送大学教育振興会）2004、『現代アメリカ経済』萩原伸次郎・中本悟（日本評論社）2005、『現代アメリカ経済分析』中本悟・宮崎礼二（日本評論社）2013、『現代アメリカ』渡辺靖編（新曜社）2014、『現代アメリカ経済史』谷口明丈・須藤功編（有斐閣）2017								
教員からのお知らせ	りす Can に課題や配布プリントの一部を掲載します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内で対応します。								
その他									